

「パスファインダー」作りによる情報探索についての学習指導 —情報活用能力を育成する読書指導の基礎として—

Learning guidance on information search by making "Pathfinder":
As a foundation for teaching reading to nurture information
utilization abilities

徳永加代*

Kayo Tokunaga

本研究では、平成29年版学習指導要領が求める情報活用能力を育成する読書指導の基礎としての「パスファインダー」作りによる学習指導に焦点をあてる。「パスファインダー」とは、特定のテーマ（主題）に関する資料や情報を収集する手順を簡単にまとめたリーフレットである。「パスファインダー」を作成する授業実践の過程、作成された「パスファインダー」をもとに、情報活用能力を育成する読書指導のあり方について考察する。「パスファインダー」作成のポイントとして、国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会の作成した「高等教育のための情報リテラシー基準2015年版」が示す6つの場面を用いて、授業実践の意味づけを行った。考察を通して、「パスファインダー」作りによって、学習者の情報活用能力が育成されることを明らかにした。

1. 本論の目的

情報化の急速な進展の中、あふれる情報から課題解決のために必要な情報を収集、選択、活用、発信する力、すなわち情報活用能力が求められている。情報活用能力を育成するためには、様々な資料・情報が整備されている学校図書館を活用する方法についての読書指導が必要である。

本論では、情報活用能力を育成する読書指導の基礎として、学習者自らによる「パスファインダー」作りの有効性について考察を行う。

2. 「パスファインダー」とは

2.1 「パスファインダー」の定義

「パスファインダー」とは、特定のテーマ（主題）に関する資料や情報を収集する手順を簡単にまとめたものである。テーマについての基本資料の一部や、調べ方を紹介した手引きであり、情報探索の道しるべとなる。図書館におけるレファレンス（調査相談）サービスの一つとして注目されている。

「パスファインダー」は、マサチューセッツ工科大学の図書館において最初に考案された。1969年、Marie P. Canfieldが、「初学者の即時のニーズに応えるさまざまなタイプの基本資料をコンパクトにまとめたリストであり、利用者の文献検索を一步步支援するツール」として、利用者向けのリーフレットを作成したのが端緒である。その目的は、次の7点である。¹⁾

* こども学科 准教授

1. 入門的な情報を入手するためのチェックリストである。
2. 様々なタイプの情報源を提供する。
3. 特定のトピックに焦点を当てたものである。
4. 文献検索の初期段階における利用者を手助けするように工夫されている。
5. 利用者の時間を節約する。
6. 主題知識の乏しい利用者のためのガイドである。
7. 網羅的な主題書誌ではない。

丸本郁子（2003）は、「パスファインダー」について「ある特定のトピック（主題）に関する資料・情報を収集する際に、関連資料の探索法を一覧できるリーフレットのこと」と定義している。²⁾ブックリストと混同されやすいが、ブックリストは、「ある基準で選択され、本を薦めたり、紹介したりするために作られた目録のこと」³⁾である。一方、「パスファインダー」は、関連する資料や情報を網羅的に記載するのではなく、新たな情報を探しだしていくために、様々な情報を例示している。つまり、利用者が関連する情報を主体的に収集できるように作成された検索ガイドである。

近年、公共図書館において、子ども向けの「パスファインダー」が作成され、ホームページによって公開されるなど、広がりを見せている。

2.2 児童生徒にとっての「パスファインダー」の有効性

北海道石狩管内高等学校図書館司書業務担当者研究会は、児童生徒にとっての「パスファインダー」の有効性について、次のようにまとめている。⁴⁾

①主体的な資料・情報の収集

パスファインダーに示された方法に従ってたどっていくことで、自分の力で必要な資料・情報を獲得できるということは、児童生徒にとって大変大きな魅力の一つであるといえるでしょう。

②メディア活用能力の育成

さまざまな授業や調べ学習等に 응용して使われることによって、図書館での情報検索法を習得していくことができます。

③読書領域の広がり

パスファインダーを使って資料を探していくうちに、例示された図書以外のさまざまな図書に出会い、興味・関心のある図書を見つけ出すことができます。

「パスファインダー」には、本（図鑑、百科事典含む）や雑誌、新聞、インターネットなど、情報源となるメディアについて整理されている。主体的に資料や情報を探すために、多様な情報をどのような順序によって、どのように探していけばよいのかが示されている。学校において「パスファインダー」を利用する場合には、司書教諭や指導者が作成したものを検索ガイドとして、学習者に配付するのが一般的である。児童生徒が他者の作成した「パスファインダー」を活用することにより「①主体的な資料・情報の収集」について理解し、「②メディア活用能力の育成」につながり、「③読書領域の広がり」への契機となるであろう。

その一方、「パスファインダー」を活用することは、司書教諭や指導者が提供する情報

をたどることだけに終わってしまう可能性もある。「パスファインダー」の意味や活用法を学習者に理解させて活用していくことが重要である。そのためには、学習者自身に「パスファインダー」を作成させることを通して、あるテーマに対する情報源をどのような手順によって、どのように探していけばよいかを体験させることが有効であろう。

2.3 先行研究における学習者による「パスファインダー」作成の有効性の考察

成田康子（2007）は、高校3年生に、各自の進路希望に応じたトピックを考えさせ、グループになって「パスファインダー」のひな型（項目ごとに当該内容を調べて書き込むもの）を使い作成させた。作成者が、どのように使われる可能性があるのか、どのように使われることが効果的であるのかを予測して作ることの重要性を指摘している。⁵⁾

山家亜紀子（2007）は、高校1年生に、興味・関心のあるトピックをグループごとに設定させ、多様な情報源から資料を検索し収集させた。作成を通して自校の図書館がわかるようになり、よりの確な資料・情報を選び出し例示できるようになったことを明らかにしている。⁶⁾

菊地秀文・福本徹（2007）は、児童が「パスファインダー」を作成した授業実践を報告している。小学校5年生に、国語科や社会科において行った図書やインターネットを活用した調べ学習を振り返り、調べ方を「パスファインダー」としてまとめさせている。児童向けの「パスファインダー」では、インターネット検索項目において、検索エンジンに入力するキーワードの作成方法を重視して記述する必要があると指摘している。⁷⁾

村上詠子（2008）は、大学生司書教諭受講者に対して、レポート・論文作成のための準備過程において、個々に「リーフレット型パスファインダー」を作成させ、学生の情報活用能力について考察を行った。作成過程において、情報収集能力、情報検索能力、情報活用能力が身に付くことが明らかになったと指摘している。⁸⁾

工藤邦彦（2014）は、大学生の司書・司書教諭養成において「図書館パスファインダー」作成演習を行った。受講者の所感から「作成演習を通し、図書館が所蔵する多様な情報資源の存在を認識し、主題に則した情報探索手順を理解したことが分かった」と論じている。⁹⁾

このように、「パスファインダー」の作成を通して、大学図書館や学校図書館の多様な情報源を有効に活用できるようになることが明らかにされている。

本論では、このような先行研究の成果を踏まえ、平成29年版学習指導要領が求める情報活用能力を育成する読書指導の基礎として、小学校6年生が行った「パスファインダー」作りによる情報探索についての学習指導の意義について考察を行う。

3. 学習指導要領が求める情報活用能力

平成29年版小学校学習指導要領においては、全ての学習の基盤となる資質・能力として、言語活動と情報活用能力が重視されている。「平成29年版小学校学習指導要領解説・総則編」では、情報活用能力について、次のように述べられている。¹⁰⁾（引用中の下線は論者が添えた。以下同様）

情報活用能力をより具体的に捉えれば、学習活動において必要に応じてコンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた

情報をわかりやすく発信・伝達したり、必要に応じて保存・共有したりといったことができる力であり、さらに、このような学習活動を遂行する上で必要となる情報手段の基本的な操作の習得や、プログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力等も含むものである。

下線部「情報を整理・比較したり、得られた情報をわかりやすく発信・伝達したり、必要に応じて保存・共有したりといったことができる力」に注目したい。課題解決のために多様な情報の中から必要な情報を収集・選択し関連付けながら、考えを深めて発信して保存していく力が求められていると言えよう。

4. 情報活用能力を育成する読書指導

4.1 学校図書館における情報活用能力の指導

平成29年版次期小学校学習指導要領の「C読むこと」領域における「言語活動例」には、学校図書館の利用が次のように例示されている。¹¹⁾

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
ウ 学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。	ウ 学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。	ウ 学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。

小学校におけるいずれの段階においても、「学校図書館などを利用」することが求められており、特に〔第3学年及び第4学年〕においては「事典や図鑑などから情報を得」ることが、そして、〔第5学年及び第6学年〕では「複数の本や新聞などを活用して、調べ」ることが重視されている。小学校段階から、学校図書館において情報を収集、選択、吟味してまとめ、情報から得たことを発信する言語活動が求められているところに注目したい。

「平成29年版小学校学習指導要領解説・総則編」では、学校図書館における情報活用能力の指導について、次のように述べられている。¹²⁾

各教科等において、学校図書館の機能を計画的に利活用し、児童の主体的・意欲的な学習活動や読書活動を充実するよう努めることが大切である。その際、各教科等を横断的に捉え、学校図書館の利活用を基にした情報活用能力を学校全体として計画的かつ体系的に指導するよう努めることが望まれる。さらに、教育課程との関連を踏まえた学校図書館の利用指導・読書指導・情報活用に関する各種指導計画等に基づき、計画的・継続的に学校図書館の利活用が図られるよう努めることが大切である。

下線部「学校図書館の利活用を基にした情報活用能力を学校全体として計画的かつ体系的に指導するよう努めること」とあるように、学校図書館の「学習・情報センター」としての機能を生かし、情報活用能力を育成することが求められている。各教科におい

て探究的な学習を設定し、学校図書館において調べ学習を行い、実際に情報を活用することを通して、情報活用能力を身につけることが重視されている。

4.2 情報・メディアを活用する学び方の指導事項

「学校図書館の利活用を基にした情報活用能力を学校全体として計画的かつ体系的に指導するよう努めること」が求められ、平成 29 年版小学校学習指導要領の言語活動例において「学校図書館などを利用」することが明示されている。

では、言語活動の中で指導すべき内容を示した指導事項において、どのようなことが示されているであろうか。「読むこと」の指導事項は学習過程に沿って、次のように構成されている。¹³⁾

- 構造と内容の把握
- 精査・解釈
- 考えの形成
- 共有

この中で「学校図書館などを利用」することに関する指導事項を挙げるなら、次のような「○精査・解釈」、「○考えの形成」、「○共有」になろう。

	第 1 学年及び第 2 学年	第 3 学年及び第 4 学年	第 5 学年及び第 6 学年
精査・解釈	ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。	ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。	ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。
考えの形成	オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。
共有	カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。	カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。	カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

こうした指導事項をそのまま、「学校図書館などを利用」することの授業実践の意味づけに用いることは残念ながらできない。そこで今回の「パスファインダー」作りの授業実践の意味づけをする観点を、国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会の作成した「高等教育のための情報リテラシー基準 2015 年版」¹⁴⁾に求めることにした。

4.3 課題解決のための情報活用行動プロセスの 6 つの場面

岡部幸祐 (2017) は、「高等教育のための情報リテラシー基準 2015 年版」の基本的な考え方としての「課題解決のための情報活用行動プロセス」について、次のように論じている。¹⁵⁾

情報リテラシー基準では、紙・デジタルの文献情報を主な対象にして、学問分野に依存しない一般化した形で課題解決のための情報活用行動プロセスを想定し、それを6つの場面に分け、行動指標と具体的な行動を構成要素として提示している。大切なのは、この6つの場面を行きつ戻りつしながら、最終的に全体のプロセスを振り返り、省察を行いながら、繰り返しこのプロセスを経験することである。その繰り返しのなかで、課題解決のための情報活用行動のメタ認知能力を高めること、それこそが情報リテラシーを身につけるといえることである。

6つの場面は以下のとおりである。

- 1 課題を認識する
- 2 情報探索を計画する
- 3 情報を入手する
- 4 情報を分析・評価し、整理・管理する
- 5 情報を批判的に検討し、知識を再構造化する
- 6 情報を活用・発信し、プロセスを省察する

「課題解決のための情報活用行動プロセスの6つの場面」に注目したい。中山美由紀(2011)は、課題解決のプロセスモデルである「Big6 skills model」¹⁶⁾をもとに、「小学生のしらべる活動 6ステップ」を作成している。6つのステップは「1. テーマをつかもう!」「2. しらべてみよう!」「3. よんでえらぼう!」「4. つくってみよう!」「5. つたえあおう!」「6. ふりかえる」になっている。¹⁷⁾ この6つの学習過程は、「課題解決のための情報活用行動プロセスの6つの場面」とおおむね一致する。

調べ学習では、調べる内容を理解していくために、調べる方法を身に付けさせることが大切である。したがって、課題解決のための情報活用行動プロセスを、学校図書館を活用した調べ学習において、具体的に指導していくことが重要となる。「何を調べたいのかをはっきりさせるためのキーワード」「調べるために必要な文献等を見つけ出すこと」「目次や索引を活用して、必要な情報がどのページに掲載されているのかを特定すること」など、情報活用能力を高めることを意識した指導が必要になる。

先に述べたように、本論では、「パスファインダー」作りの授業実践の意味づけをする観点を、この「高等教育のための情報リテラシー基準 2015年版」に求めることにした。

5. 「パスファインダー」作りによる情報探索についての学習指導の考察

以下、論者が、大阪府の公立A小学校6年生を対象に行った「パスファインダー」作りの授業実践について、考察を行っていく。

なお、学習者は、今回の学習をするまで、全員「パスファインダー」の存在を知らなかった。「パスファインダー」の理解に役立つよう、帯広図書館が作成した子ども向けの「パスファインダー」¹⁸⁾を印刷して学校図書館に展示し、いつでも見ることができるよう配慮した。

5.1 「パスファインダー」作りの概要

〔対象〕大阪府の公立A小学校6年生2クラス(57名)

〔期間〕平成29年2月20日～28日

〔場所〕学校図書館、必要に応じてコンピュータ室

学校図書館には、図書以外に児童が作成した新聞の切り抜き資料、パンフレット、リーフレット、絵葉書、広報紙、冊子が情報として整理されている。

〔作成方法〕4人グループになって行う。グループ学習の利点を生かし、意見を伝え合いながら学習活動を行う。所定の用紙に記述する。

〔単元名〕学習に役立つ「パスファインダー」を作ろう

〔単元目標〕必要な情報を見つけ出し、整理して関係づける過程において、情報探索のスキルを身につける。

〔指導計画〕全4時間

時	学習活動	情報活用行動プロセスの6つの場面
1	指導者の作成した「パスファインダー」を示し、単元の学習を通して行う言語活動について見通しをもつ。 6年間の学習を振り返り、学習に役立つテーマを考える。 関連する資料や情報を集める手がかりとなるキーワードを考える。	1 課題を認識する 2 情報探索を計画する
2	テーマを理解するために関連する百科事典や図書を探してまとめる。	3 情報を入手する 4 情報を分析・評価し、整理・管理する
3	テーマに関する新聞の切り抜きスクラップ、Webサイト、パンフレット、リーフレット、雑誌を探してまとめる。	5 情報を批判的に検討し、知識を再構造化する
4	「パスファインダー」を読み合い、互いに評価し合う。	6 情報を活用・発信し、プロセスを省察する

5.2 「パスファインダー」の構成

パスファインダーは1枚のリーフレットとして作成する。A3の用紙の表と裏を使用し、4ページを割り当て二つ折りにし見開きにする。

「帯広図書館パスファインダー子ども向け」を参考に作成した各ページに記載する項目は、次のとおりである。

ページ	項目	内容
1 (表紙)	テーマ	6年間の学習を振り返り、下級生が学習するときに役立つテーマにする。
	しらべるためのキーワード	関連する資料や情報を集める手がかりとなるように考える。
	ステップ1 まずはこちらでしらべよう！	百科事典や図鑑など、テーマを理解するために必要なテーマに関連した参考図書を選ぶ。
	作成年月日	情報は常に更新されていくので、いつの情報かは大切である。

2・3 図書 紹介	ステップ2 もっと くわしくしらべよ う！	1 ページ2冊。表紙の写真・本の題名・作者名・分類 番号・おすすめポイントを100字程度にまとめる。
4 (裏表 紙)	ステップ3 ほかに もしらべよう！（新 聞切り抜き・インタ ーネットなど）	テーマに関する新聞の切り抜きスクラップ、Webサ イト、パンフレット、リーフレット、雑誌を紹介する。 図書の紹介でもよい。
	作成者	責任をもって、おすすめする。

フォーマットをきめて、それに沿って記述させた。パスファインダー作成上の留意点として、次の3点を指導した。

- ①利用対象者を決めて、具体的な学習に役立つテーマを設定する。
- ②できる限り分類番号の違う図書にする。
- ③資料や情報はすべて記載できないため、選ぶことが重要である。

5.3 小学校6年生が作成した「パスファインダー」の例

小学校6年生が作成した「パスファインダー」の例を示す。吹き出しによって示したのは、論者による説明である。【資料1】

5.4として「パスファインダー」作りについての考察を行う。

5.4 「パスファインダー」作りについての考察

学習の流れにそって考察する。

1時 1 課題を認識する 2 情報探索を計画する

主体的な資料・情報の収集のための準備段階として、帯広図書館が作成した「パスファインダー」を紹介し、特徴を理解させた。「パスファインダー」に紹介されている図書、新聞、雑誌、視聴覚メディア、電子メディアの種類や特徴を知ることにより、「情報・メディアの種類や特性を知る」とともに「情報・メディアの利用法」を確認する。学習の最終形態をイメージさせるために指導者が作成した「パスファインダー」も紹介した。

1 課題を認識する

自分たちの作成する「パスファインダー」の学習に役立つテーマを決めるため、6年間の学習を振り返り、どのようなことを学んできたのか、教科書を読みながら振り返らせた。グループになって情報交換しながらイメージを広げ、調べたいことを選んでいく。「学習テーマの選択」つまり学習に役立つという視点から自分の調べたいことを選ぶために絞り込みを行う。

学習者は、理科の学習から「植物」「いつまでも輝く星」「魚」「花や草」、社会の学習から「貿易」「記号」「戦国武将」、地域学習の経験から「堺について」、意見文を書くときの題材にした「戦争と平和」、「命」など、今までに行った調べ学習に関係するテーマを取り上げた。

2 情報探索を計画する

調べたいことを選んだ後、調べる計画を立てた。複数の調べる方法を考え、順序よく組み立てる手順を確認する。今回は「パスファインダー」のフォーマットがあるので、その手順を確認することになる。

【資料1】 学習者が作成した「パスファインダー」

ページ1が表紙、ページ4が裏表紙、ページ2・3は中面、二つ折りになる。

小学校 学校図書館パスファインダー 2019. 3.10

戦争と平和について 課題 (テーマ)

しらべるためのキーワード

命のつながり

実話

地雷

大東洋戦争

日本国憲法

ハト

世界の人々

命の大切さ

戦後の日本

調べるためのキーワード

ステップ1 まずはこれをしらべよう!

☆ ホラテア

☆ 戦争、てなんだ、たの? ~

ステップ3 ほかにもしらべよう! (新聞切り抜き・インターネットなど)

おかあちゃん ごめんね 早乙女勝元
本当にあった実話が絵本になっています。戦争のかくさ、苦しさがえがかれています。
9歳

新聞スクラップ その他 いろいろ
朝日小学生新聞 10月28日(水) 絵本で戦争をうたえる
作家: 塚本やすしん イラスト: ~

新聞スクラップ その他 いろいろ
毎日新聞 8月8日(月) 広島原爆の日71年
原爆の悲しさ、二度とあってはいけないということがかかれています。

新聞スクラップ 社会
毎日新聞 7月7日(火) 母の心をこぼすに伝える

作成者

1 4

テーマに関する資料(新聞、インターネットなど)本でもよい。

テーマを理解するための参考図書(百科事典、図鑑など)

ステップ2 もっとくわしくしらべよう!

本の表紙写真

つながる! 「いのちのまつり」
作: 草場 一壽
あなたの命には、たくさんの命が
つながっています。お母さんの命、

おばあさんの命、ひいおばあさんの命... 数えきれない命
があなたにつながっています。そんな命のつながりについて描かれています。

本の表紙写真

戦争を平和にかえる法
3歳
文: ルイズ・アームストロング
戦争を子と母たちのげんかに

例えて、わかりやすく説明している本です。

本の表紙写真

戦争・紛争を考える 感動物語
9歳
本当にあった体験談が7つ
かかれています。戦争や紛争に

負けずにかまはっている人々の姿がえがかれています。

本の表紙写真

戦争 国際協力を知る本
3歳
著: ボール・ベネット
世界の人々の戦争の実

体についてくわしく書かれています。日本ではありえないことでも世界で起きていることがわかります。

書名

分類番号

著者名

おすすめポイント
100字程度

2 3

また、調べるためのキーワードは、テーマに関連した基本的な参考図書を探すための「検索語」になる。教科書を読み返しながらかテーマに関連する言葉をできるだけ多く考え、多様な見方ができるようにその中から絞って考えるように指導した。【資料1】に示したように「戦争と平和について」の学習者は、テーマに対する調べるためのキーワードを直接戦争に関する言葉だけではなく「命のつながり」「ハト」などのように広げており、多面的に考えようとしている。

2時 **3 情報を入手する** **4 情報を分析・評価、整理・管理する**

テーマを理解するための図書を探索する段階である。はじめに、学校図書館の利用について、分類の仕組みと配置、学校図書館にあるメディア、情報の検索方法の確認を行った。

3 情報を入手する

「ステップ1 まずはこれでしらべよう！」では、テーマを理解するために必要なテーマに関連した参考図書を選ばせた。目的に応じたメディアを利用することを身につけるのである。【資料1】のように「戦争と平和について」の学習者は『ポプラディア』『戦争ってなんだったの？1～8』と、戦争についておおまかに知ることのできる百科事典やシリーズの本を選んだ。一方、他のグループは『SUPER 理科事典』『社会科事典』『にっぽん探検大図鑑』『目でみる単位の図鑑』『マンガ音楽事典』『仕事図鑑』など、テーマに合った事典や図鑑を選んでいる。「目的に応じたメディアを利用すること」を理解していると言えよう。

4 情報を分析・評価し、整理・管理する

「ステップ2 もっとくわしくしらべよう！」では、キーワードから考えた図書を4冊選ばせた。このとき、読書の幅を広げることができるよう、できる限り分類番号の違う図書にするように指導した。本のタイトルを読んでテーマに関連しているかを判断するのではなく、目次や索引からキーワードに関係のあるページを探したり、探したページを中心に情報を探し出すために拾い読みしたりすることの有効性についても注目させた。

【資料1】のように「戦争と平和について」の学習者は、候補として読んだ20冊の中から『つながってる「いのちのまつり」』（9類）『戦争・紛争を考える感動物語』（9類）『戦争を平和にかえる法』（6類）『戦争 国際協力を知る本』（6類）と、戦争と平和、命について多様な視点から本を選んだ。一方、「植物」をテーマに選んだ学習者は、『アサガオのつるはなぜまきつく』（4類）『ずら〜りマメ』（4類）『森と木のひみつ』（6類）『ちいさいタネ』（9類）というように、自分たちが考えたキーワード「たね」「つる」「マメ」「木」に関連する本を探し、その中から分類番号を意識しながら選んでいる。

このように、テーマに沿った図書や図鑑を探すことにより、読書領域が広がり、選書の力を培うことができるようになった。

3時 **5 情報を批判的に検討し、知識を再構造化する**

テーマに関する情報を探索する段階である。

「ステップ3 ほかにもしらべよう！（新聞の切り抜き・インターネットなど）」では、テーマに関する新聞の切り抜きやWebサイト（児童生徒向けの資料を多く集めた「Yahoo! きっず」）などを探してまとめた。このときインターネット情報について信憑性

などに注意すること、多様な情報を比較して評価して情報を選ぶことを指導した。また、学習者が以前に作成した新聞記事のスクラップも活用するように促した。学校図書館メディアから多角的に資料や情報を収集できるよう、個別に支援を行った。

【資料1】のように「戦争と平和について」の学習者は『『おかあちゃんごめんね』早乙女勝元』という実話をもとにした絵本を紹介し、矢印によってモデルになった人のインタビューが載っている「毎日新聞 7月7日（火）母のかくご、君に伝える」とつなげ、情報を関係づけている。さらに、戦争と平和について多面的に考えることができるよう、原爆の悲惨さが書かれている記事を集めた新聞記事のスクラップを紹介している。¹⁹⁾ 主体的に情報を選び、情報の受け手を意識して活用しやすいように、学習者自身が工夫したところが重要である。

「堺について」をテーマにした学習者は、学校図書館にある堺市のパンフレットやリーフレット、「堺市役所ホームページ 匠の技が冴える 伝統産業」²⁰⁾を紹介している。このように、雑誌や新聞、パンフレット、ホームページ等も情報として有効であることを理解し、複数の情報を比較、評価して掲載している。多様な情報源から資料を探索していくことを通して、学校図書館のよさを理解するようになり、よりの確な資料や情報を選ぶことができるようになってきた。

4時 6 情報を活用・発信し、プロセスを省察する

作成した「パスファインダー」は、読み合い相互評価をした。評価の観点には「キーワードは適切か」「必要な情報があるか」「様々なタイプの情報源が載っているか」「新たな課題が発見できるか」である。このことを通して、情報メディアの使い方、情報の調べ方、情報のまとめ方を確認する。

最後に「パスファインダー」を作成して終わりではなく、学習成果を吟味させ、どのような力が身についたかをメタ認知させた。

なお、作成した「パスファインダー」は、学校図書館に保管し、他学年の学習者がいつでも見ることができるようにした。学校図書館に保管していくことにより、情報検索支援ツールとして使用できる。

6. 「パスファインダー」作りにより「身についた力」

6年生（57名）に対して、学習後に行った「学習の振り返り」において「身についた力」について自分の言葉によって書かせた。プロセスを省察することを「目に見える形に」する学習活動と言えよう。その結果、学習者が考えた「情報活用行動プロセスの6つの場面」を重視した「パスファインダー」作りにより「身についた力」（学習者の記述を論者がまとめた）は、次の通りである。

情報活用行動プロセスの6つの場面	学習者が考えた身についた力
1 課題を認識する	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返ってテーマを見つける力 ・学習に役立つテーマを考える力 ・どのようなことに興味があるのか考える力

2 情報探索を計画する	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードを調べる力 ・キーワードを考える力 ・学習計画を立てる力
3 情報を入手する	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の使い方 ・分類番号の意味を理解する力 ・情報を利用する方法 ・キーワードを使った本を選ぶ力 ・インターネットを使った資料の探し方
4 情報を分析・評価し、整理・管理する	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに合った本や資料の探し方 ・学校図書館から本や資料を探す力 ・調べる力
5 情報を批判的に検討し、知識を再構造化する	<ul style="list-style-type: none"> ・本や資料を読む力 ・読み取る力 ・大切なところを抜き取る力 ・新聞の切り抜きを利用する力
6 情報を活用・発信し、プロセスを省察する	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介文をまとめる力 ・人（相手）に伝える力 ・文を書く力 ・要約する力 ・パスファインダーを評価する力

この「パスファインダー」作りを通して「身についた力」の表から、次のようなことがらを読み取ることができよう。

1 課題を認識する

「テーマを考える力」のように、課題を設定する力がついたら実感していることがわかる。主体的に学ばせるためには、指導者が学習者にとって興味・関心が湧く課題を設定し、調べようとする動機付けをする必要がある。今回は、後輩のために学習に役立つテーマという課題を設定した。6年間の学習を振り返ることにもつながり、主体的な学習活動になった。

2 情報探索を計画する

情報検索のためには、「キーワードを考える力」が重要になる。そして、利用可能な情報・メディアの種類や特性、利用法を知り、情報探索計画を立てさせることにより、課題解決への見通しをもつことができた。

3 情報を入手する

「学校図書館の使い方」と書いているように、今までは本を読む、借りるといった「読書センター」としてのイメージが強かった学校図書館から、調べ学習の役に立つ「情報センター」の機能があることを学んでいる。「インターネットを使った資料の探し方」「キーワードを使った本を選ぶ力」のように、必要な情報を選ぶ力がついたことがわかる。

4 情報を分析・評価し、整理・管理する

「テーマに合った本や資料の探し方」「学校図書館から本や資料を探す力」と書いているように、学校図書館にある本や情報の中から、情報を探すことを通して、自分の探した情報が課題解決のために適切であるかどうか判断する力をつけていることを自覚できている。特に重要なのが、グループ内で情報の探し方や適切な情報かどうかを検討した

り、教え合ったりすることであろう。自分とは違う考え方、観点と出会うことができるからである。物理的なメディアの活用だけに留まらず、他者との対話という質的な要素を含むことにより、より豊かで確かなものとなるに違いない。

5 情報を批判的に検討し、知識を再構造化する

「大切なところを抜き取る力」「新聞の切り抜きを利用する力」のように、情報を批判的に検討し、取り出した情報をすでに持っている知識と関連させ、新たにわかったことを明確にする。つまり、情報を比較して評価し関連づける力をつけることができたと言えよう。

6 情報を活用・発信し、プロセスを省察する

「人（相手）に伝える力」「紹介文をまとめる力」のように、学習結果のまとめ方を理解し、調べたことをまとめて人に伝えることにより、情報を取捨選択、整理する力をつけていることを認識している。「パスファインダーを評価する力」と書いているように、作成した「パスファインダー」を読み合い意見交流することにより、「パスファインダー」の意味を理解し、利用方法を知ることにもつながる。また、新たな課題を見つけることもできるであろう。

7. 成果と課題

これらの考察の結果、「1 課題を認識する」「2 情報探索を計画する」「3 情報を入力する」「4 情報を分析・評価し、整理・管理する」「5 情報を批判的に検討し、知識を再構造化する」「6 情報を活用・発信し、プロセスを省察する」という「課題解決のための情報活用行動プロセスの6つの場面」を重視した「パスファインダー」づくりは、情報活用能力を育成する読書指導として有効であることが明らかになった。

今後の課題として、次の2点を挙げることができる。

- ①学習者が作成した「パスファインダー」を実際に活用した際の有効性の検証
- ②情報・メディアを活用する学び方指導の年間指導計画の作成

学校図書館を活用し、必要な情報を収集、整理する学習は、生涯学習の基礎となる重要な役割をもつ。探究的な言語活動を通して、情報活用能力を高める読書指導を開発していきたい。

注

- 1) Marie P. Canfield: Library Pathfinder. Drexel Library quarterly. Vol8、pp.287-300、1972
- 2) 丸本郁子：「2.5パスファインダー」、日本図書館協会図書館利用教育委員会編 図書館利用教育ハンドブック大学図書館版 日本図書館協会、pp.78-81、2003
- 3) 国立国会図書館：子どもの本のブックリスト(7) (テーマ別・その他)
https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/7.php (2018年1月5日アクセス)
- 4) 石狩管内高等学校図書館司書業務担当者研究会：パスファインダーを作ろう 情報を探す道しるべ、全国学校図書館協議会、p.8、2005
- 5) 成田康子：学校図書における情報リテラシー能力の育成とパスファインダーの活用 (1)
—「学校図書館賞」を受賞した指導教材の導入とその実践から—、短期大学図書館研究、27、pp.83-88、2007

- 6) 山家亜紀子：学校図書における情報リテラシー能力の育成とパスファインダーの活用（2）
—「学校図書館賞」を受賞した指導教材の導入とその実践から—、短期大学図書館研究、27、
pp. 89-94、2007
- 7) 菊地秀文・福本徹：児童自らパスファインダーを作成する授業実践、第23回教育工学会全国
大会講演論文集、pp. 829-830、2007
- 8) 村上詠子：パスファインダー作成の有効性—情報検索・メディア活用能力の育成—、目白大
学短期大学部研究紀要、44、pp. 155-179、2008
- 9) 工藤邦彦：司書・司書教諭養成における図書館パスファインダー作成演習の試み、別府大学
紀要、55、pp. 137-149、2014
- 10) 文部科学省：小学校学習指導要領解説総則編、p. 51
- 11) 文部科学省：小学校学習指導要領第2章各教科第1節国語、p. 17、20、23
- 12) 文部科学省：小学校学習指導要領解説総則編、p. 91
- 13) 文部科学省：小学校学習指導要領解説国語編、pp. 37-38
- 14) 国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会：高等教育のための情報リテラシー基準
2015年版、pp. 12-14、2015
- 15) 岡部幸祐：高等教育のための情報リテラシー基準2015年版の策定経緯と活用方法、大学図書
館研究、105、p. 33、2017
- 16) <http://big6.com/pages/about/big6-skills-overview.php> (2018年2月10日アクセス)
- 17) http://www.u-gakugei.ac.jp/~schoolib/htdocs/?action=common_download_main&upload_id=2169 (2018年2
月10日アクセス)
- 18) 帯広図書館：パスファインダー
https://www.lib-obihiro.jp/TOSHOW/html/pathfinder_top.html (2017年2月2日アクセス)
- 19) 「毎日小学生新聞 8月8日(月) 広島原爆の日71年」
「朝日小学生新聞 10月28日(水) 絵本で戦争を訴える作家・塚本やすしさんのインタビュー」
- 20) <http://www.city.sakai.lg.jp/kanko/sakai/keisho/dentosangyo/index.html> (学習者が2017
年2月24日アクセス)

参考文献

(雑誌)

- 鹿島みづき・山口純代：投稿 図書館パスファインダーに見る次世代図書館の可能性、情報の科
学と技術、52(10)、pp. 526-537、2002
- 吉本智津子：情報検索の有効なツール—パスファインダー、学校図書館、654、pp. 81-84、2005
- 藤田利江：小学校における情報の組織化とパスファインダー、学校図書館学研究、pp. 55-62、2008
- 伊藤白・小澤弘太：投稿 国内におけるWeb上パスファインダーの現況調査、情報の科学と技術、
58(7)、pp. 361-366、2008
- 後藤敏行：学校図書館と情報リテラシー、家政経済論叢、45、pp. 31-44、2009
- 三澤勝己：学校図書館と公共図書館の情報サービスにおける協力の動向と今後への提言：学校図
書館側からの協力という視点を中心として、十文字学園女子大学短期大学部研究紀要、45、
pp. 143-156、2014

(単行本)

読書教育研究会：読書教育通論 児童生徒の読書活動、学芸図書株式会社、1995

増田信一編著：学び方を養う学校図書館 司書教諭の職務とサービス、学芸図書株式会社、2000

宅間紘一：学校図書館を活用する学び方の指導 課題設定から発表まで、全国学校図書館協議会、2002

朝比奈大作編著：司書教諭テキストシリーズ 04 読書と豊かな人間性、株式会社樹村房、2002

鹿島みづき・山口純代・小嶋智美共著：パスファインダー・LCSH・メタデータの理解と実践：図書館員のための主題検索ツール作成ガイド、愛知淑徳大学図書館（愛知淑徳大学情報メディアサービス部）、2005

小林路子：多メディアを活用する力を育もう 教育の情報化と学校図書館、株式会社ポプラ社、2005

鎌田和宏：教室・学校図書館で育てる 小学生の情報リテラシー、株式会社少年写真新聞社、2007

全国学校図書館協議会「シリーズ学校図書館学」編集委員会編著：シリーズ学校図書館学 4 読書と豊かな人間性、社団法人 全国学校図書館協議会、2011

立田慶裕編著：読書教育の方法—学校図書館の活用に向けて—、株式会社学文社、2015